様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２１ 日現在

機関番号：１５３０１
研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｈ０５７３１

研究課題名（和文）出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明

研究課題名（英文）Integrative Human Historical Science of "Out of Eurasia": Exploring the Mechanisms o f the Development of Civilization

研究代表者
松本　直子（Matsumoto, Naoko）

岡山大学・文明動態学研究所・教授

研究者番号：３０３１４６６０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　60,700,000円

研究成果の概要（和文）：全体会議やユニット研究、国際会議等によりメンバー相互の連携、成果共有、議論を推進し、地域・分野の枠を超えた統合的共同研究体制を確立するという領域目標を達成することができた。
人が生み出す物質的環境に支えられた知のシステムとしての文化形成について、日本列島、メソアメリカ、アンデス、オセアニア各地の実態と比較検討から、出ユーラシア地域の特性を明らかにした。
多様な分野から得られる成果を突き合わせ、人工的環境構築から超自然的信念の生成、社会階層の発達やドメスティケーション等について、生物学的視点と文化的視点を統合的に理解する三元ニッチ構築モデルを発展させ、過去と現在をつなぐ一貫した人類史観を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
地域・分野の枠を超えた統合的共同研究体制を確立し、文明創出に関わる認知的基盤、物質的環境による心や身体の変化について継続的に研究成果を生み出せる研究基盤をつくることができた。
多くの専門分野に属する研究者、研究対象地域の異なる研究者が、共通する問題意識や概念をめぐって議論することで、多くの新知見が得られ、今後の学術の進展に寄与する新しい課題が見えてきた。暴力や戦争と文明の関係についてコミュニケーションという視点で長期的な変化のパターンを見出したこと、生物学的視点と文化的視点を統合的に理解する三元ニッチ構築モデルを発展させ、一貫した人類史観を提示できたことは、大きな学術的・社会的意義を有する。

研究成果の概要（英文）：Through plenary sessions, unit research, and international conferences, we promoted collaboration, sharing of results, and discussion among members to achieve the primary goal of our project to establish an integrated collaborative research system that transcends regional and disciplinary boundaries.
Our unique approach to the formation of culture as a system of knowledge, supported by the material environment produced by people, with a comparative study of the actual conditions in the Japanese archipelago, Mesoamerica, the Andes, and Oceania, made us clarify the characteristics of each area and a universal mechanism of the formation of civilizations.
By comparing the results obtained from various fields, we developed a triadic niche construction model that integrates biological and cultural perspectives to understand the formation of civilizations. This model presents a consistent view of human history that links the past and present.

研究分野：考古学

キーワード：統合的人類史学　文明動態　ニッチ構築　物質文化　文化進化　認知考古学　三次元計測

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

現在、ヒト（ホモ・サピエンス）は地球上に約 80 億個体生活しており、家畜と合わせると陸上脊椎動物のバイオマスの 9 割を占めている。ヒトが、これほど異常な生物学的「繁栄」に達したのはなぜか。大規模で複雑な社会組織、高度な科学技術、巨大な世界宗教を含む様々な宗教的信念など、他の動物行動とは大きく異なる特異的な様相が現れたのは、文明形成期である。文明形成期は、200 万年にわたるヒト属の進化を通して継続した遊動的狩猟採集生活が大きく転換した時期であり、後代の社会・文化の基礎となった。我々がどのようにしてここに至ったのかを知るためには、文明形成がどのようにして起きたかを明らかにする必要がある。

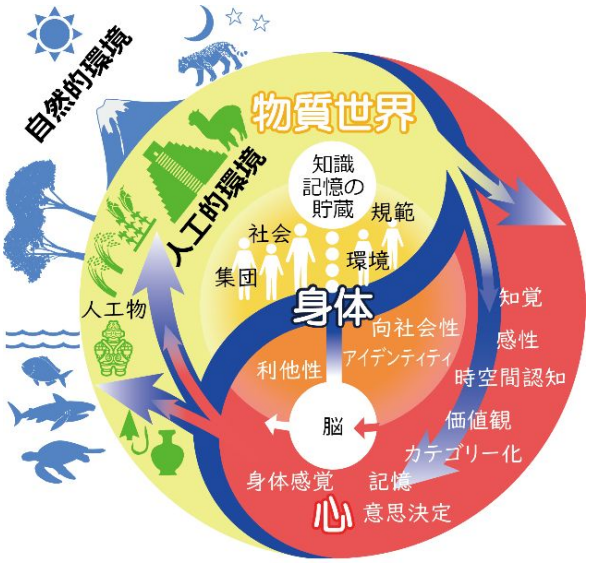
従来の研究の問題点は、文明形成を二項対立的、還元論的に捉えていることである。自然と文化、心と物質、という概念を所与のものとして扱うため、文化そのもの、心そのものを根本的に問い直すことができていない。物質文化の技術的機能と、人間の心に訴えかける芸術的・認知的機能についても、これまで二項対立的に捉えられてきた。こうした従来の枠組みでは、自然と文化の間の複雑な相互関係、心と物質が不可分に結び付いて展開する文明形成の実態を捉えることができないため、何が現代社会に至る爆発的かつ急速な社会的・文化的変化をもたらしたのか、という問題が十分明らかにされていない。

生物としての人間と文化の関係に着目した研究として、ヒトの身体（脳・遺伝子）と文化が相互に影響を与えつつ共進化してきたとする研究や、生物が自ら環境を変化させ、その変化が次の世代以降の進化に影響するという「ニッチ構築」の視点から人類史を叙述しようとする試みが進められているが、文明形成期に何がどのように起きたかについての包括的理解は進んでいない。その理由は、人間が生み出す物質文化の果たす役割が十分に検討されていないためである。ヒトが作り出す物質的環境の在り方は、いくつかの地域でこの 1 万年間で質的にも量的にも大きく変化した。この「文明形成」過程に共通しているのは、それまでのヒトの生活の基本であった遊動的な狩猟採集生活で進化してきた社会的規範や行動パターンなどが、大きく転換していったことである。この人類史における重要な転換がどのようにして起こったかを理解することは、現代社会における喫緊の課題（人口爆発、頻発する戦争、差別、貧困、環境破壊、格差の拡大など）の起源を明らかにすることであり、それらの解決方法を検討する際の重要な指針となるものである。

２．研究の目的

そこで本領域研究は、自然と文化、心と物質をつなぐ人間自体、人間の行為と認知に焦点を絞り、これまでにない文明形成論を展開する。具体的には、人間が物理的に生み出す物質、人間の身体、そしてそれらの相互作用の中核にあって文化を生み出す心という 3 つの視座を確保する（図１）。この視座の下に、文明形成期の物質文化に焦点を当て、人間に特異的な「ニッチ（生態的地位）」がいかに形成されてきたかを明らかにする統合的人類史学の構築を目指す。

人文社会科学で扱う文明の地域研究・比較研究という従来型の枠にとらわれず、人類史の観点から生物としてのヒトが自然界の中で特有な社会進化を遂げ、文明化を果たした要因・プロセスを多層的に解析することができる、今後の文明研究に貢献しうる情報・研究成果を発信する常設の研究体制を確立しようとするものである。



身体を介して、心は物質世界に、物質世界は心に浸潤する。人間が物質的世界を創り、物質的世界が人間を創るプロセスで身体も変化する。

図１　本領域研究の基本的視座（モデル）

３．研究の方法

文明を生み出すヒトの特異性はどのようなものか、多様性はどのようにして生まれるのか、そのプロセスでヒトの社会・文化・身体がどのように変わったのか、を明らかにするためには、物質文化においていつ・どのような変化が起こったかについて実証的に研究する考古学的研究、身体を介したヒトの認知・行動と環境とのインタラクションにおいて何が起きているかについての民族誌的調査及び脳神経科学・心理学的メカニズム研究、さらに集団の動きや身体的変化に関する自然人類学、遺伝学的研究の統合が不可欠である。

本研究では、ユーラシアを出てボトルネックや極限的状況を超えて拡散したホモ・サピエンスの最終到達地域である、アメリカ大陸・日本列島・オセアニアの 3 地域を対象として設定し、異

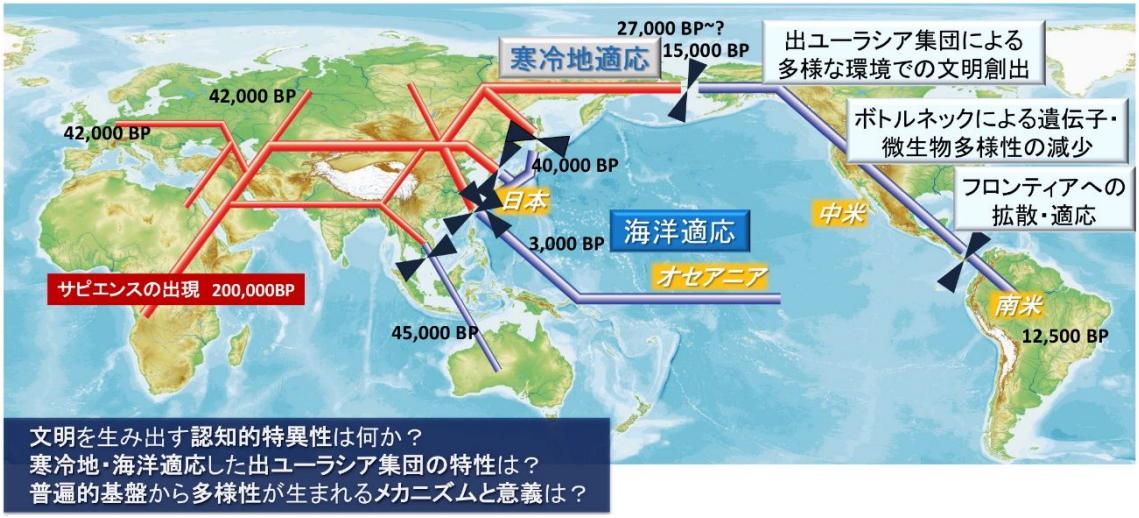


図２　出ユーラシア地域を対象とする体系的比較研究

なる自然環境・歴史的経緯の下で独自に展開した複数の「文明形成」プロセスを「自然実験」として体系的に比較することで、要因間の関係や共通するプロセス、差異の発生と拡大などを抽出する（図２）。この戦略的地域設定により、同じ時代のアフリカ・ユーラシア大陸には既になかった、ヒトにとって「白紙」の環境（フロンティア）への適応過程の中で、自然環境への働き掛け、特異な認知や行動の発現、共生生物との関係構築などをより純粋に観察できる。

４．研究成果

（１）統合的人類史学研究体制の構築

年に２回の全体会議を開催してメンバー相互の連携、成果共有、議論を推進したことにより、地域・分野の枠を超えた統合的共同研究体制を確立することができた。文明創出に関わる認知的基盤、物質的環境による心や身体の変化について定量的に分析し、さらに地域や時代、分野を拡大して継続的に研究成果を生み出せる研究基盤を構築するという本領域の中心的課題は達成することができた。

（２）共同研究の推進と成果公開

分野を超えた統合的研究を推進するため、本領域研究の重要課題に焦点を当てた研究計画を横断するようなユニット研究をたちあげた。ランドスケープユニット、Domestication ユニット、人間生物学ユニット、食と栄養ユニット、ヒトと動物の生贄儀礼ユニット、ヒト形人工物の顔・身体表現分析ユニット等で活発な研究を実施し、その成果として、岩波『科学』に掲載された「特集 文明をつくる力―心と環境の相互作用」、Psychologia 誌の特集「Integrative Science of Human Historical Science: How Can Psychology, Archaeology, Anthropology and Biology Work Together」、心理学評論の「特集：心理学と人類史研究の接点」、『景観で考える―人類学と考古学からのアプローチ』などを刊行した。

（３）国際会議・シンポジウムの開催

文明形成期に相互に独立して展開したこのプロセスを比較分析することにより、生物としての個人の能力を超えた知のシステムとしての文化が形成される在り方について、日本列島、メソアメリカ、アンデス、オセアニア各地の実態を明らかにし、その成果をメキシコ、ハワイ、日本で開催した国際会議において深化、共有、公開した。メキシコとハワイで開催した会議のプロシーディングスは、領域ウェブサイトでダウンロード可能である。

また、ユーラシア大陸からアメリカ大陸への拡散の実態については、国際シンポジウム「ベーリンジア：ユーラシアからアメリカへの人類の拡散」を開催して最新の研究成果に基づく議論を深めた。シンポジウムの動画は、日本語版・英語版を YouTube で公開しており、アラスカ大学から論文集も刊行した。

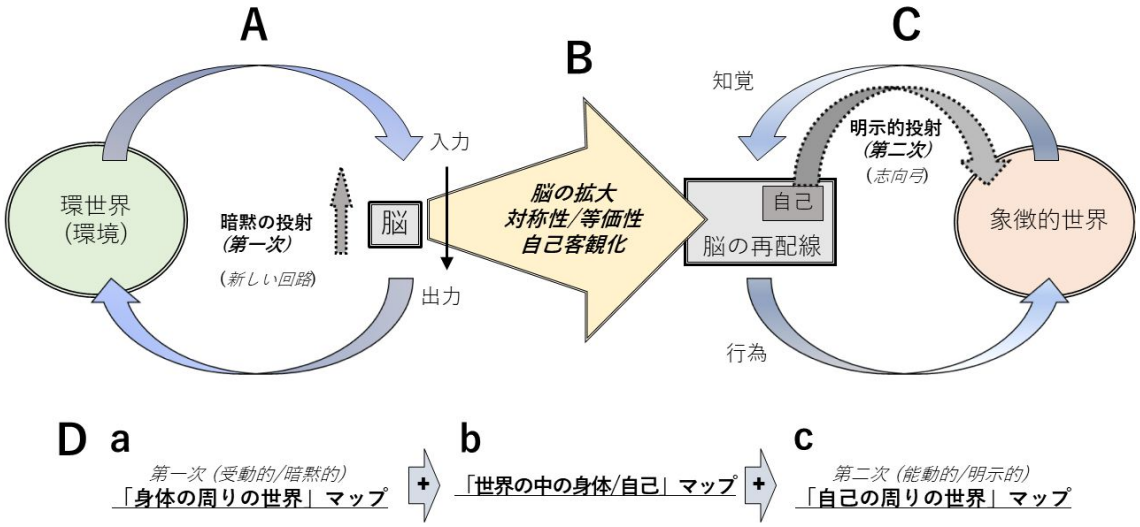
暴力や戦争と文明の関係については、申請時から重要なテーマとして計画研究を設置していたが、領域研究期間に生じた国際的な情勢を受けて改めて喫緊の検討課題と位

置づけ、国際シンポジウム、公開シンポジウムを開催して、議論を深めるとともに、成果を広く公開した。

（４）三元ニッチ構築モデルの発展とさらなる課題への挑戦

ニッチ構築という視点と物質文化研究を統合の核とすることにより、多様な分野から得られる成果を相互に突き合わせ、ドメスティケーションを含む環境利用・改変の在り方と認知的ニッチ構築の関係について、生物学的視点と文化的視点を統合的に理解する三元ニッチ構築モデルを発展させ、過去と現在をつなぐ一貫した人類史観を提示した（図３）。

これらの成果に基づき、物質と心の共創関係のメカニズムをさらに追及する学術変革領域研究Ａ「マテリアマインド―物心共創人類史学の構築―」が始動することとなった。



A：人間を含む生物は、感覚運動学習によって獲得したものを受動的かつ暗黙的に投影して周囲の世界に適応する。これに対応して、脳内に構築される神経表現は、「身体の周りの世界」マップ（Da）である。**B**：道具使用で起こる脳の拡張過程によって、自分自身を「自己」として客観化する認知能力を獲得し、それによって「世界の中の身体／自己」マップを獲得（Db）。**C**：膨らんだ脳機能の再配線により、世界は、世界と自己についての多様なありうる状態を明示的かつ能動的に投射できる場所となった（二次投影）。ここに至り、世界は人間が適応すべき与えられた環境ではなく、人間自身が道具の使用などの意図的な行動によって変容させることのできる、重層的な時空間複合体となる。これに対応して、脳内に構築された神経表現は、「自己の周りの世界」マップとなる（Dc）。

図３　三元ニッチ構築による環境と脳の間の情報の流れの変化と自己概念の発生、および象徴的世界の構築（Iriki et al. 2021 **より**）

文献

「特集　文明をつくる力―心と環境の相互作用」『科学』Feb. 2021 Vol.91 No.2: 159-213.

川畑秀明・齋木潤編 (2023).「**特集　心理学と人類史研究の接点**」『**心理学評論**』65(2).

Goto, A. and Matsumoto, N. (Eds.). (2024). *Trekking Shores, Crossing Water Gaps, and Beyond: Maritime Aspects in the Dynamics of "Out of Eurasia" Civilizations*. Research Institute for the Dynamics of Civilizations, Okayama University.

Iriki, A., Suzuki, H., Tanaka, S., Vieira, R. B., and Yamazaki, Y. (2021). The sapient paradox and the great journey: Insights from cognitive psychology, neurobiology, and phenomenology. *Psychologia*, *63*, 151–173. https://doi.org/10.2117/psysoc.2021-B017

Matsumoto, N., Sugiyama, S., and Garcia-Des Lauriers, C. (Eds.). (2021). *Landscape, Monuments, Arts, and Rituals Out of Eurasia in Bio-Cultural Perspectives. Proceedings of an International Conference in Mexico, February 27-28, 2020*. Research Institute for the Dynamics of Civilizations, Okayama University.

Potter, B. A. and Honda, S. (Eds.). (2024). Human Dispersals from North Asia via Beringia into North America. *Anthropological Papers of the University of Alaska*, Vol. 7.

Saiki, J., and Iriki, A. (Eds.). (2021). Special issue on interdisciplinary research: Integrative science of human historical science: How can psychology, archaeology, anthropology and biology work together? *Psychologia*, 63(2).

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　5件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 松本直子	４．巻 150
２．論文標題 認知考古学	５．発行年 2020年
３．雑誌名 季刊考古学	６．最初と最後の頁 106-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 松本直子	４．巻 728
２．論文標題 認知考古学から読み解く縄文人の心性	５．発行年 2019年
３．雑誌名 考古学ジャーナル	６．最初と最後の頁 15-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大西秀之	４．巻 25
２．論文標題 1.共有資源としてのアイヌ文化史跡：北海道標津町における地域住民の語りを事例として	５．発行年 2019年
３．雑誌名 生態人類学会ニュースレター	６．最初と最後の頁 32-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Bretas, RV., Taoka, M., Suzuki, H., & Iriki, A.	４．巻 238
２．論文標題 Secondary somatosensory cortex of primates: Beyond body maps, towards conscious “self-in-the-world” map.	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Experimental Brain Research	６．最初と最後の頁 259-272
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00221-020-05727-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Bretas, RV., Yamazaki, Y., & Iriki, A.	4．巻 161
2．論文標題 Phase Transitions of Brain Evolution that Produced Human Language..., and Beyond.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Neurosci Research	6．最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neures.2019.11.010.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Gumert MD, Tan A, Luncz L, Chua CT, Kulik L, Switzer A, Haslam M, Iriki A, & Malaivijitnond S.	4．巻 156
2．論文標題 Prevalence of tool behaviour is associated with pelage phenotype in intraspecific hybrid long-tailed macaques (Macaca fascicularis aurea x M. f. fascicularis)	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Behavior	6．最初と最後の頁 1083-1125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1163/1568539X-00003557	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Tramacere, A., Wada, K., Okanoya, K., Iriki, A., & Ferrari, P. F.	4．巻 409
2．論文標題 Auditory-motor matching in vocal recognition and imitative learning	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Neuroscience	6．最初と最後の頁 222-234
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neuroscience.2019.01.056	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Tanaka, T., Matsumoto, T., Hayashi, S., Takagi, S. & Kawabata, H.	4．巻 7(3)
2．論文標題 What Makes Action and Outcome Temporally Close to Each Other: A Systematic Review and Meta-Analysis of Temporal Binding	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Timing & Time Perception	6．最初と最後の頁 189-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1163/22134468-20191150	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計32件（うち招待講演　7件／うち国際学会　18件）

1．発表者名 松本直子
2．発表標題 人類史における顔身体表現
3．学会等名 公開シンポジウム『顔身体の進化と文化』（招待講演）
4．発表年 2021年

1．発表者名 後藤明
2．発表標題 オセアニアにおけるモニュメントと社会複合化
3．学会等名 新学術領域研究『出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明第2回全体会議「ドメスティケーション・土器・社会複合化・モニュメント：出ユーラシア地域の文明形成プロセスの比較」』
4．発表年 2020年

1．発表者名 杉山三郎
2．発表標題 メソアメリカのモニュメント/エリート埋葬墓と階層社会の形成：研究の展望と目的
3．学会等名 新学術領域研究『出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明第2回全体会議「ドメスティケーション・土器・社会複合化・モニュメント：出ユーラシア地域の文明形成プロセスの比較」』
4．発表年 2020年

1．発表者名 鶴見英成，山本睦，松本雄一，渡部森哉
2．発表標題 アンデス文明におけるドメスティケーション，モニュメント，土器，社会複合化
3．学会等名 新学術領域研究『出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明第2回全体会議「ドメスティケーション・土器・社会複合化・モニュメント：出ユーラシア地域の文明形成プロセスの比較」』
4．発表年 2020年

１．発表者名 Acuila, L., Tsurumi, E., Sara, C. & Kanezaki, Y.
２．発表標題 El Proyecto de Investigacion Arqueologica Kotosh 2018. Excavacion.
３．学会等名 VI Congreso Nacional de Arqueologia, Lima, Peru（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sugiyama, S.
２．発表標題 Monuments, Elite Burials, Arts, and Rituals as Social Memories in Comparative Contexts
３．学会等名 Out of Eurasia, International Academic Meetings in Mexico.（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Tsurumi, E.
２．発表標題 Domestication, monument, pottery and growing social complexity of the Andean Civilization
３．学会等名 Out of Eurasia, International Academic Meetings in Mexico（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Tsurumi, E. & Morales, C.
２．発表標題 Tembladera: investigaciones en sitios tempranos en el valle medio del Jequetepeque.
３．学会等名 VI Congreso Nacional de Arqueologia, Lima, Peru（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 松本直子，蒲池みゆき，川畑秀明
２．発表標題 人形人工物における顔・身体表現の比較研究に向けて
３．学会等名 新学術領域研究『出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明第2回全体会議「ドメスティケーション・土器・社会複合化・モニュメント：出ユーラシア地域の文明形成プロセスの比較」』
４．発表年 2020年

１．発表者名 Matsumoto, N.
２．発表標題 Exploring the Mechanisms of the Development of Civilization: An Overview of the New Integrative Project "Out of Eurasia
３．学会等名 4th Shanghai Archaeology Forum（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Matsumoto, N.
２．発表標題 Outline of the "Out of Eurasia" project
３．学会等名 Out of Eurasia, International Academic Meetings in Mexico.（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Matsumoto, N.
２．発表標題 Toward a comparative analysis of the facial and bodily representation of anthropomorphic artefacts
３．学会等名 Out of Eurasia, International Academic Meetings in Mexico.（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Matsumoto, N.
２．発表標題 Typology and morphometrics: How we see and interact with things.
３．学会等名 he 4th Conference on the Archaeological and Anthropological Application of Morphometrics (MORPH 2019 Sendai)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tamura, K., Nakao, H., Yamaguchi, Y., & Matsumoto, N.
２．発表標題 Elliptic Fourier analysis of the Ongagawa pottery in prehistoric Japan
３．学会等名 The 4th Conference on the Archaeological and Anthropological Application of Morphometrics (MORPH 2019 Sendai)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 松木武彦
２．発表標題 弥生時代から古墳時代へ－認知プロセスとグローバル史の視点から
３．学会等名 考古学研究会東京例会 第50回記念シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 松木武彦
２．発表標題 日本列島の古墳出現期における地域間ネットワーク
３．学会等名 国立中央博物館学術シンポジウム（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 松木武彦
２．発表標題 日本列島の社会複合化と戦争・アート・モニュメント
３．学会等名 新学術領域研究『出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明第2回全体会議「ドメスティケーション・土器・社会複合化・モニュメント：出ユーラシア地域の文明形成プロセスの比較」』
４．発表年 2020年

１．発表者名 松木武彦
２．発表標題 『型式学』の脱構造化－古墳時代の鏃を対象とした提言－
３．学会等名 「形の理」第２回セミナー・シンポジウム『人工（遺）物の三次元計測と幾何学的形態測定の理論と実践』
４．発表年 2020年

１．発表者名 Matsugi, T.
２．発表標題 Warfare, art and monument in the process of social development on the Japanese Archipelago
３．学会等名 Out of Eurasia, International Academic Meetings in Mexico.（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Tamura, K., Nakao, H., Takata, K., Hashimoto, T. & Matsugi, T.
２．発表標題 Quantifying morphological variation of bronze and iron arrowheads of the Kofun period in Japan.
３．学会等名 The 4th Conference on the Archaeological and Anthropological Application of Morphometrics (MORPH 2019 Sendai)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 大西秀之
２．発表標題 技術研究をめぐる民族誌フィールドの可能性
３．学会等名 国立民族学博物館共同研究（若手）「テクノロジー利用を伴う身体技法に関する学際的研究」
４．発表年 2020年

１．発表者名 Inamura, T.
２．発表標題 Andean pastoralism and llama’s significance for the formation of Andean civilization from the view point of ethnography
３．学会等名 Out of Eurasia, International Academic Meetings in Mexico（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Onishi, H.
２．発表標題 Tribalism or Chiefdom?: The formation of Ainu society by influences from outside worlds
３．学会等名 Out of Eurasia, International Academic Meetings in Mexico（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 山﨑由美，入來篤史
２．発表標題 『三元ニッチ構築』の媒介現象としての食餌行動に伴う脳-腸連関の可能性
３．学会等名 新学術領域研究『出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明第2回全体会議「ドメスティケーション・土器・社会複合化・モニュメント：出ユーラシア地域の文明形成プロセスの比較」』
４．発表年 2020年

１．発表者名 Iriki, A.
２．発表標題 Tool use and primate evolution through cortical expansion and epigenetic regulation
３．学会等名 International Workshop “Brain and behavioural evolution in primates”,（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Iriki, A.
２．発表標題 Neurobiological mechanisms of intellectual human evolution as an element of holistic ecosystem
３．学会等名 Wildlife in Thailand “human and wildlife coexistence on the planet?”（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Iriki, A.
２．発表標題 Triadic niche construction (cognition, brain, environment) as a driver of hominin evolution
３．学会等名 European Workshop on Cognitive Neuropsychology（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 瀬口典子
２．発表標題 南北アメリカの人々の頭蓋骨および体肢骨形態の調査:共通祖先を特定する観点から
３．学会等名 新学術領域研究『出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明第2回全体会議「ドメスティケーション・土器・社会複合化・モニュメント：出ユーラシア地域の文明形成プロセスの比較」』
４．発表年 2020年

１．発表者名 瀬口典子
２．発表標題 複数の観察者・機器・手法によって取得された古人骨の3次元(3DGM)データの正確性・信頼性
３．学会等名 南山大学考古・人類学セミナー「形ノ理：モノが語る物語」/シンポジウム「人工（遺）物の三次元計測と幾何学的形態測定の理論と実践」
４．発表年 2020年

１．発表者名 中尾央，中川朋美，田村光平，野下浩司
２．発表標題 土器の 3 次元計測とその数理的解析
３．学会等名 新学術領域研究『出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明第2回全体会議「ドメスティケーション・土器・社会複合化・モニュメント：出ユーラシア地域の文明形成プロセスの比較」』
４．発表年 2020年

１．発表者名 中尾央・中川朋美・田村光平・山口雄治
２．発表標題 弥生時代中期北部九州における戦争
３．学会等名 進化学会第21回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Nakao, H.
２．発表標題 Warfare in the Neolithic: Comments on Project “Neolithic Civilizations of Eurasia: Jomon - Origin, Early Stages, Local Peculiarities ”
３．学会等名 International Workshop “Early Civilizations from the Viewpoints of the Northeast Eurasian Prehistory: A New Perspective”（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計9件

1．著者名 稲村哲也・中尾央編	4．発行年 2021年
2．出版社 岡山大学文明動態学研究所	5．総ページ数 247
3．書名 出ユーラシアプロジェクト第５集　出ユーラシアの統合的人類史学ー文明創出メカニズムの解明ー2020年度研究活動報告書	

1．著者名 松本直子編	4．発行年 2021年
2．出版社 岡山大学文明動態学研究所	5．総ページ数 19
3．書名 出ユーラシアプロジェクト第６集　第５回全体会議予稿集	

1．著者名 松本直子編	4．発行年 2022年
2．出版社 岡山大学文明動態学研究所	5．総ページ数 116
3．書名 出ユーラシアプロジェクト第７集　第６回全体会議予稿集	

1．著者名 国立歴史民俗博物館，松木武彦，福永伸哉，佐々木憲一編	4．発行年 2020年
2．出版社 吉川弘文館	5．総ページ数 265
3．書名 日本の古墳はなぜ巨大なのかー古代モニュメントの比較考古学ー	

1．著者名 松本直子他	4．発行年 2020年
2．出版社 岡山大学大学院社会文化科学研究科附属文明動態学研究センター	5．総ページ数 133
3．書名 「出ユーラシアの統合的人類史学― 文明創出メカニズムの解明 ―」2019 年度 研究活動報告	

1．著者名 Goto, Akira and Matsumoto, Naoko (eds.)	4．発行年 2024年
2．出版社 Research Institute fot the Dynamics of Civilizations, Okayama University	5．総ページ数 250
3．書名 Proceedings of the Out of Eurasia Hawai'i Conference, March 02-03, 2023 Trekking Shores, Crossing Water Gaps, and Beyond: Maritime Aspects in the Dynamics of "Out of Eurasia" Civilizations	

1．著者名 松本直子編	4．発行年 2024年
2．出版社 岡山大学文明動態学研究所	5．総ページ数 83
3．書名 出ユーラシアプロジェクト第15集　第10回全体会議予稿集	

1．著者名 Matsumoto, Naoko (ed.)	4．発行年 2023年
2．出版社 Research Institute for the Dynamics of Civilizations, Okayama University	5．総ページ数 42
3．書名 Proceedings of an International Conference The Creation of Royalty in "Out of Eurasia" Civilizations: Exploring the Mechanism of the Emergence of Transcendent Power	

１．著者名 Potter, Ben A. and Honda, Shunwa (eds.)	４．発行年 2024年
２．出版社 Department of Anthropology, University of Alaska	５．総ページ数 177
３．書名 Anthropological Papers of the University of Alaska, Vol.7. Human Dispersal from North Asia via Beringia into North America	

〔産業財産権〕

〔その他〕

出ユーラシアの統合的人類史学 - 文明創出メカニズムの解明 -
http://out-of-eurasia.jp/index.html
出ユーラシアの統合的人類史学 - 文明創出メカニズムの解明 -
http://out-of-eurasia.jp/index.html

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	稲村　哲也 (Inamura Tetsuya) (00203208)	放送大学・教養学部・客員教授 (32508)	
研究分担者	鶴見　英成 (Tsurumi Eisei) (00529068)	放送大学・教養学部・准教授 (32508)	
研究分担者	瀬口　典子 (Seguchi Noriko) (10642093)	九州大学・比較社会文化研究院・准教授 (17102)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	中尾　央 (Nakao Hisashi) (20720824)	南山大学・人文学部・准教授 (33917)	
研究分担者	後藤　明 (Goto Akira) (40205589)	南山大学・人文学部・教授 (33917)	
研究分担者	杉山　三郎 (Sugiyama Saburo) (40315867)	岡山大学・文明動態学研究所・特任教授 (15301)	
研究分担者	松木　武彦 (Matsugi Takehiko) (50238995)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授 (62501)	
研究分担者	大西　秀之 (Onishi Hideyuki) (60414033)	同志社女子大学・現代社会学部・教授 (34311)	
研究分担者	入來　篤史 (Iriki Atsushi) (70184843)	国立研究開発法人理化学研究所・未来戦略室・上級研究員 (82401)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	中園　聡 (Nakazono Satoru)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計8件

国際研究集会 戦争のランドスケープと先史社会	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国際セミナー「考古学での遺跡調査の最前線」	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国際シンポジウム「アジア（西、南、東南、東）・オセアニアで行われた暦（南山大学人類学研究所「天文学と人類学の融合」第４回シンポジウム）」	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Out of Eurasia, International Academic Meetings in Mexico: Landscape, Monuments, Arts, and Rituals Out of Eurasia in Bio-Cultural Perspectives	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 A Conference on the Archaeological Applications of Morphometrics 2019	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 国際会議2023（第９回拡大全体会議）出ユーラシアにおける王権の創成：超越的力出現のメカニズム	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Trekking Shores, Crossing Water Gaps, and Beyond: Maritime Aspects in the Dynamics of "Out of Eurasia" Civilizations	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 International Workshop in Arequipa, Peru: Various Perspectives for Landscape	開催年 2023年～2023年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	CSRM Foundation			
メキシコ	メキシコ国立人類学歴史学研究所			
米国	University of Pittsburgh	Harvard University		
英国	University of Cambridge	Sainsbury Institute		
米国	Cold Spring Harbor Laboratory	Johns Hopkins University		